

「広報那須」 広告募集

町では、新たな自主財源の確保と地元企業等のイメージアップや地域経済の活性化を図ることを目的として、「広報那須」に有料広告の募集をしています。

■掲載位置 表紙および裏表紙を除く4ページ以内、各ページ最下段

■広告の大きさ 1号広告 縦5cm横17cm 2号広告 縦5cm横8cm

※広告の色は黒単色とし、掲載する広告の割り付けは、町が行います。

■広告掲載料(税込み) 1号広告 20,000円 2号広告 10,000円

※広告掲載には町税等を滞納していないことなどの条件があります。

詳しくは、町ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

■申込み・問合せ 総務課広報広聴係 ☎72-6901

友好都市交流特別企画

「大型客船につぼん丸で航く 那須町民クルーズ」募集

那須町と友好都市を結ぶ茨城県大洗町では、今秋開催される大型客船「につぼん丸」で航く秋の世界遺産巡りクルーズをより多くの町民の皆さまに体験していただくため、那須町民クルーズとして特別料金にて開催いたします。

是非この機会に「につぼん丸」による優雅で豪華な船旅を満喫してみてください。

○町民クルーズ

▼旅行日程

【熊野・屋久島・徳島・姫路】10月8日(木)～12日(月)までの5日間

▼参加資格 那須町在住または勤務の方およびその家族

▼申込期限 定員になり次第締め切りとさせていただきます。

※料金・客室等の詳細はお問合せください。

○説明会

▼日時 6月18日(木)午後7時～

▼場所 ゆめプラザ・那須クルーズ専門スタッフによる「につぼん丸クルーズセミナー」を開催します。

当日は、クルーズの話や今年のおすすめクルーズの紹介など楽し

いひと時をお過ごしいただけます。

▼問合せ 那須町民クルーズ係
☎029-266-3325



那須の歴史余話(38)

宇都宮城釣天井事件と伊王野家

宇都宮城釣天井事件は、江戸時代の元和8年(1622)、下野国宇都宮藩主で江戸幕府年寄の本多正純が、宇都宮城に吊り天井を仕掛けて第2代將軍徳川秀忠の暗殺を図ったなどの嫌疑を掛けられ、本多家は改易、正純が流罪となった事件である。ただし、実際には宇都宮城に釣天井の仕掛けは存在せず、改易は別の原因によるものとされている。

正純の父・本多正信は將軍秀忠付の年寄、正純は駿府の大御所徳川家康の側近であった。そのため、その地位と権勢は揺るがなかった。元和2年(1616)、家康と正信が相次いで没すると、正純は2万石を増加されて下野小山藩5万3000石となり、秀忠付の年寄(後の老中)にまで列せられ、さらに宇都宮15万5000石へと移封した。

元和8年(1622)、正純は秀忠が家康の七回忌に日光東照宮を参拝した後、宇都宮城に一泊する予定であったため、城の普請や御成り御殿の造営を行わせた。4月16日に秀忠が日光へ赴くと、秀忠の姉で奥平忠昌の祖母・加納御前から「宇都宮城の普請に不備が

ある」という密訴があり、予定を変更して宇都宮城を通過して、21日に江戸城へ帰還した。秀忠は、宇都宮城の本丸石垣の無断修理、さらには宇都宮城の寝所に釣天井を仕掛けて秀忠を圧死させようと画策したなど、11か条の罪状嫌疑を正純へ突きつけた。その結果、所領は召し上げ、本多家は改易となる。正純の身柄は久保田藩主佐竹義宣に預けられ、出羽横手への流罪となり、その地で没したのである。

この事件は、思わぬ波紋を起した。宇都宮城の普請には、当時腕の良い大工として知られていた伊王野、千本の大工が動員されていたのである。当然、釣天井の嫌疑は伊王野家にもかけられ、何らかの処分があったと考えられている。この後の伊王野家は、寛永4年(1627)に、城山から現在の伊王野小学校敷地へ屋敷を移転し、さらに6年後の寛永10年には、無嗣(後継ぎがない)により断絶になっている。400年の伊王野家の歴史が終焉を迎える一因となったのかもしれない。



釣天井事件の舞台となった宇都宮城(復元)